

復活節第2主日礼拝 説教要旨(4月12日)

『平和があるように』早川 真牧師

ヨハネによる福音書 20:19-29

主イエスは、今は天に昇られ父の右の座に着いておられます。ですから今、直接に主イエスを見ることはできません。しかし多くの人がイエス・キリストが死んで復活されたことを信じています。それは「私は主を見ました」という証言が、イースターの日の証言以来絶えることなく続いてきたからです。

聖書において教会はキリストの体であると言われます。体にいろんな部分があるように教会にもいろんな人がいます。その中には特別な体験をしたと言う人もいれば、そのような体験はしたことがないと言う人もいます。しかし共通しているのは、それぞれに違う性格や経験を通してイエス・キリストを「私の主、私の神よ」と告白しているということです。

復活の主イエスはまるで戸に鍵をかけているかのような恐れと不安に満ちた心にも、また悲観的で固く閉ざした心にも入ってきてくださり「あなた方に平和があるように」と語ってくださいます。そして私たちに息を吹きかけて聖霊を与えてくださいます。この聖霊の働きによって私たちは「私の主、私の神よ」との告白へと導かれていきます。

教会は、時に恐れや不安、悲観的になりながらもなおキリストが私たちの真ん中に立ち「あなた方に平和があるように」と語ってくださることを信じて歩む共同体です。そして不信仰に陥る私たちにキリストが憐れみ深く与えて下さった恵みを分かち合う共同体です。

今朝聖書の証言を聞いた私たち一人一人もまた、この平安を頂き幸いな者となるように招かれています。この証言を聞くすべての人が幸いな者となるように、今私たちの真ん中に立っておられる復活の主イエスと共に祈りを合わせたいと思います。